

令和5年度福岡市子どもプラザ事業運営団体選考に係る協議会 議事要旨
【博多区山王子どもプラザ・博多区博多南子どもプラザ】

- 【開催日時】 令和5年11月8日（水） 13：00～
【場所】 アクロス福岡 605 会議室
【議題】 (1) 応募団体プレゼンテーション・質疑応答
(2) 応募内容の審査・評価、意見交換
【出席者】 中村委員長、川上委員、植山委員、城戸委員

博多区山王子どもプラザ

(応募団体C)

委員：オンライン交流のプレパママ交流会の具体的な内容は。

応募団体：ZOOM を活用していきたい。妊娠期や子どもと関わったことが無い方、子どもを望んでいる方に向けて看護師が助言をする内容。妊娠中のお母さん同士の交流にも繋がる。

委員：人権に関することで気を付けていることは何か。

応募団体：保育士の言葉かけに気を付けている。国が示すチェックリストで定期的に確認している。子どもへの虐待・DV に関しても日頃の衣服や食事の様子や体重の増減など半年に1回チェックしている。気付きを大切にしている。

委員：職員配置計画にある養成者とは何か。

応募団体：無資格者だが、保育に携わりたいと思っている方を採用したいと考えている。子育て支援員研修を受講してもらうという条件はあるが、一人でも保育業界の担い手を増やしていきたいという狙いがある。

委員：職員配置について、担当業務がコンシェルジュとプラザになっている職員がいるが、コンシェルジュとプラザの職員は曜日ごとに入れ替えるのか。

応募団体：なるべく、日替わりではなくコンシェルジュ、子どもプラザともに専任の職員を採用したいと考えている。

(応募団体D)

委員：運営してきた中で問題・課題をどうとらえるか。

応募団体：親子のかかわりが年々変化していくと感じている。短い期間でのかかわりになるが、楽しい時間を過ごしてもらえよう場になるよう心掛けて取り組んでいる。

委員：ほかのプラザに見学に行ったり、研修したりしているか。

応募団体：他のプラザに見学に行ったり、同じ団体が運営する子どもプラザと毎月情報交換している。

委員：お父さん集まれの日について。お父さんならではの遊び方があるのか。

応募団体：子どもを持ち上げて高い高いをするなどして遊んでいる。利用者でもあるお父さんサポーターを中心に、サポーターが自分の子育てを語りながら、他のお父さんの相談を受けたりしている。

委員：サポーターは毎日子どもプラザに来るのか。

応募団体：行事など大人の目が欲しい時に参加していただいている。年に2回養成講座を開いていて、それを受講した方が登録されている。声掛けを行って、来てもらっている。

（応募団体E）

委員：ボランティアをどのように募集するのか。

応募団体：別の事業では公民館等でワークショップを開いて参加者をつなぎ、人脈が広がっている。同じように、山王地区でも地域との連携を強めていきたい。地域の方を巻き込むようなイベントを実施することから始めていきたい。

委員：毎日読み聞かせをしたいとのこと。負担が大きいと思うが、毎日実施するのか。

応募団体：読み聞かせは子どもがことばを習得する根幹となると考える。これがあるから、と楽しみに来てくれると嬉しい。毎日したい。

委員：参考にされたプラザはあるか。

応募団体：かつて、利用していたプラザはある。

委員：5月の講座は、カウンセリングを子どもプラザスタッフが行うのか。

応募団体：心理カウンセリングの有資格者2名が在籍しており、カウンセラーが行う講座を考えている。

総評

博多区山王子どもプラザ

応募団体Cに関して

- ・ プレパパママ向け講座など、新しい視点を持った提案が多い点は評価できる。
- ・ 保育園の見学、プレパパママ向け講座など、子どもプラザ中心な内容よりも周辺的な内容の提案が多いように感じたため、普段プラザに来る来館者を対象とした取り組みを期待する。

応募団体Dに関して

- ・ これまでの実績に即して、改善を行ったりお父さん向けの取り組みなど新しい試みがある。
- ・ 利用者がスタッフになったことや利用者がボランティアとして参加しているなど、運営が地域に根差しており、安定した運営を行える団体と思われる。

応募団体Eに関して

- ・ 取り組みは非常に面白いが、具体性に欠ける印象がある。実際に運用されるときに親子とどのように関わるのかが見えてこない。
- ・ 0～1歳児など年齢の低い子どもへの関わりの提案を期待したい。

博多区博多南子どもプラザ

(応募団体F)

委員：雨の日のオンラインの取り組みは、対話しながら配信するということは一人の職員が張り付きになってしまうが、残りの人で来館者の対応をするということか。

応募団体：講座は時間を設定し、講師を映して配信するイメージ。映り込みについても配慮する。

委員：来場者増に向けての検討の話について。駐車場・おもちゃ買い替え以外にできることは？

応募団体：情報発信の積み重ねが最優先と考える。良いものを備えていても、ここがあるとということを知ってもらわないと意味がない。

委員：博多南子どもプラザならではの取り組みを考えているか。

応募団体：オルガンで演奏して親子で一緒にできる親子リトミックを是非やってみたい。部屋が狭くても対応できるリトミック。

委員：新しい視点が多く、意欲を感じられるが、子どもプラザは親子に寄り添う場であってほしいとも考える。無理なく運営できるように留意されたい。

応募団体：養成者の採用ができれば、余剰人員ができる。その中でズームや壁面創作などに取り組みたいと考える。

委員：イベントに熱意がある保護者と、外部と接触を持ちたくない閉じこもりがちの保護者と様々いるがどう考えるか。

応募団体：子どもプラザに来ている保護者の中にも、誰かとしゃべりたくはないが家にいるよりは、ということで来ている人もいると思う。スタッフが察知して、個々に合わせた対応をしたい。

(応募団体G)

委員：利用者アンケートをとっているか。また、現時点での問題点はあるか。

応募団体：どんな講座に参加したいかのアンケートをとったことはある。定期的なアンケートはとっていないが、来館者との会話を大事にしたいと考えているため、口頭で伺うことはある。ベビーカー置き場が欲しいと思っている。

委員：シフト表を見ると2名体制での運営の日があるが、大変と思う。どのような工夫をしているのか。

応募団体：利用者は少なめで、中でもリピーターが多い。来館者が集中することもないのでとくに困らず運営できている。イベント開催時のみ来館者が集中するタイミング

はあるが、利用者同士の交流を促すようにしている。

委員：利用者が増えるように、または新規の利用者を開拓するために工夫していることはあるか。

応募団体：親子リトミックなど、利用者のニーズに応じた企画は行っていきたい。

委員：人員4名でまわしているとのこと。コロナ感染時などは対応できたか。

応募団体：同じ団体内のほかのプラザのスタッフに来てもらうことができる。

委員：地域支援の取り組みは「なし」となっているが。

応募団体：近くに産婦人科があるため、リーフレットを置いてもらっている。また、民生委員の定例会に出席して通信を渡してご挨拶している。実現できていないが、民生委員や地域のサークルにもプラザに来てもらえるような取り組みを行いたいとの思いはある。

(応募団体H)

委員：博多南子どもプラザは面積が広がらないが、区画分けは不可能では。

応募団体：遊具の配置などで、動線がなるべくかぶらないようにしたい。

委員：もう少し広い子どもプラザもあったが、博多南に応募された理由は。

応募団体：地域支援をすぐに実施できないと思い、現在実施していない子どもプラザに応募した。また、職員が通勤しやすいということ、立地面から選んだ。

委員：現在運営されている施設は規模が大きく、遊びに特化したイメージ。福岡市の子どもプラザの運営を行うにあたって、どのような理念をもつか改めて教えてほしい。

応募団体：他都市で運営している施設はハード面、ソフト面両方評価が高い。施設のサイズは異なるが、他都市と同じように利用者に喜んでもらえると思う。利用者同士の会話もあり、スタッフが介入することも行っている。

委員：職員は研修を受けるのか。

応募団体：職員のセルフエスティーム（自己肯定感）を高めることに注力しており、運営に携わる前に研修をしたいと思っている。

総評

博多区博多南子どもプラザ

応募団体Fに関して

- ・ オンラインの取り組みは面白い。
- ・ 狭い施設でどのように運営するか、親子に寄り添うような提案が充実することを期待する。

応募団体Gに関して

- ・ これまでの実績を踏まえ、安定した運営が見込まれる。
- ・ 受け身な姿勢が感じられたため、課題意識を持って取り組みや組織における改善が望まれる。また、地域への取り組みを積極的に行うように期待したい。

応募団体Hに関して

- ・ 子どもの遊び場中心の提案となっており、親の支援、親の心のケアという視点が少ない印象。
- ・ 職員の育成については今後期待したい。